ちょっとそこまで

わがまち散歩

「道すがら、心通わす人がいる 古里の温もりに包まれながら あちらこちら、わがまち散歩」

津森地区の西原村と隣接する場所にある堂園地区。高台に広がるのどかな山里には便利なコンビニなどないけれど、ここでしか感じることができない、心豊かな暮らしがありました。

どうぞの 堂園 編

現在の布田川断層の様子。あぜがずれているのが分かります

熊本地震の語り部として

県道熊本高森線沿いにある津森郵便局から南下するように道を上ると、津森小学校から伸びる道と交差します。そこから東の西原村方面へと進むと、堂園集落があります。

高台にあるこの集落では、約50戸の家族が暮らしています。6年前の熊本地震では多大な被害が出ました。堂園池の近くにある畑では180メートルにわたり地震断層が表出し、横ずれ最大変位量約2・5メートルが観測され「布田川断層帯」として国天然記念物に指定されました。

被災後、熊本地震の語り部として活動している永田忠幸（ながた ただゆき）さん(39)は、「被害が大きかったことはもちろん、災害のせいにするのではなく、そのおかげとして学ぶことの大切さを伝えています」と話します。

永田さんはまた、堂園池に残る大蛇伝説や、地区の南側の蛇ヶ谷の名称は、自然災害と関係しているのではないかとも話します。「昔は地面が動くというメカニズムが理解されていませんでした。地面の大きな揺れや山崩れを『大蛇や竜が現れた』などと表現し、後世に口伝えに残したものが伝説話となったのではないでしょうか」と永田さんは推測します。

地区の中心部に広がる堂園池は、7月ともなると見事なハスの花が咲きほころびます。ハス池の名所の一つでもあり、県内外からカメラ片手に訪れる人も多いそうです。

地震直後の布田川断層

季節外れに咲いたハスの花

今年の夏ごろの堂園池のハスの花。虹が2本出ています（撮影は山来敬明（やまき たかあき）さん）

堂園で生まれ育った永田さん。東京の大学へ進学し就職後しばらくして、帰郷し実家を守っています

語り部の永田さんが「蛇ヶ谷」の話をする際に使う直筆のフリップ